

『教養の日本史』竹内誠ほか編(東京大学出版会)

2011 年度～

科目概要

日本史の各時代の特徴と大きな歴史の流れについて学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 原始時代から戦後史にいたる日本史の流れを理解する。
2. それぞれの時代の特徴について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 日本史における農耕開始の意味。
2. 東アジアの中での古代王権の位置づけ。
3. 律令国家の特徴。
4. 摂関政治・院政の特徴。
5. 鎌倉幕府の成立とその意味。
6. 惣の成立と一揆の関連について。
7. 秀吉政権による天下統一の特徴。
8. 江戸時代の対外関係の特徴。
9. 近代外交の展開
10. 戦後史の展開

参考文献

- 『日本の歴史 1～5』(岩波ジュニア新書、1999～2000 年)
『歴史のなかの天皇』吉田孝(岩波新書、2006 年)
『源頼朝と鎌倉幕府』上杉和彦(新日本出版社、2003 年)
『日本中世の歴史1 中世社会の成り立ち』(吉川弘文館、2009 年)
『刀狩り』藤木久志(岩波新書、2005 年)
『日本の歴史 近世・近現代編』藤井譲治他編(ミネルヴァ書房、2010 年)

評価基準

■ レポート評価

それぞれの時代の時代の流れと特徴を理解できているか。

■ 科目終了試験評価

それぞれの時代の時代の流れと特徴を理解できているか。

使用テキスト

配本年度

『県史 13 東京都の歴史』 竹内誠ほか編(山川出版社)

2012 年度～

科目概要

日本史の展開を江戸・東京地域を具体的な素材として理解できると共に、地域の歴史資料の存在を理解して、教材化の前提とする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 日本史を地域の歴史として理解する。
2. 地域史が具体的な歴史資料から成り立っていることを理解する。
3. 教材化に関連して地域にどのような歴史資料が存在するか理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 地域史の具体例として本学のある中世(鎌倉～室町時代)東京地域を取り上げる。
2. 地域史資料として、一般的に歴史学が対象とする古文書・記録だけでなく、伝説・祭り・文学・遺跡・石造物(板碑)・金石文(棟札など)・景観がある。
3. これらの資料から見えてくる東京地域史をテーマごとに学ぶ。
4. 地域史が日本史全体の中のどこに位置付くのか(教材化の視点)を学ぶ。

参考文献

- 『史料と遺跡が語る中世の東京』峰岸純夫・木村茂光編(新日本出版社、1996年)
『遺跡が語る東京の歴史』鈴木直人ほか編(東京堂出版、2009年)
『板碑とその時代』千々和到(平凡社選書、1988年)
『東京低地の中世を考える』木村礎監修(名著出版、1995年)
『東京百年史 第一巻』東京百年史編集委員会編(東京都、1973年)
『家康はなぜ江戸を選んだのか』岡野友彦(教育出版、1999年)
『葛西城とその周辺』葛飾区郷土と天文の博物館(たけしま出版、2001年)
『豊島氏とその時代』峰岸純夫・小林一岳・黒田基樹編(新人物往来社、1998年)

評価基準

■ レポート評価

1. 具体的な資料と地域史像が関連が理解されているか。
2. 具体的な歴史資料にはどのようなものがあるか理解できたか。
3. 歴史教育への関係を考えられたか。

■ 科目終了試験評価

1. 具体的な資料と地域史像が関連が理解されているか。
2. 具体的な歴史資料にはどのようなものがあるか理解できたか。
3. 歴史教育への関係を考えられたか。

使用テキスト

配本年度

『日本中世の歴史4 元寇と南北朝の動乱』小林一岳(吉川弘文館)

2011年度～

科目概要

日本史の中でも真ん中の時代である中世。その中でも13～14世紀は大きな画期といえる。その時代について学び、日本という社会の歴史的特質を理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 鎌倉時代後期～南北朝期の政治と社会について基本的な知識を獲得する。
2. 13～14世紀の日本文化について、基本的な知識を学び、日本文化の特質を理解する。
3. 鎌倉時代後期～南北朝期の歴史について、積極的に調べる能力を育成する。
4. 13～14世紀が日本史上の画期であることを学び、日本史について深く理解し、考察する。

■ 科目の学習要点事項

1. 鎌倉後期～南北朝期の政治について、モンゴル襲来、徳政、得宗専制、鎌倉幕府の滅亡、建武政権、室町幕府の成立、観応の擾乱などについて学習する。
2. 鎌倉後期～南北朝期の社会について、悪党、荘園の変質、流通・商業の拡大、民衆の成長、戦争と民衆などについて学習する。
3. 鎌倉後期～南北朝期の文化について、バサラ、鬨茶、連歌、田楽猿楽、太平記などについて学習する。

参考文献

日本の歴史9『南北朝の動乱』佐藤進一著(中公文庫)

『蒙古襲来—転換する社会』綱野善彦(小学館文庫)

評価基準

■ レポート評価

テキストを参照しつつ、自らできるだけ調べて論述したレポートを評価する。自らの意見を付け加えてもよい。

■ 科目終了試験評価

基礎的な学習事項を理解し、出された出題に的確に答えているかどうかを評価する。

『詳説 世界史研究』木村靖二・岸本美緒・小松久男(山川出版社)

2019 年度～

科目概要

この科目の目的は、古代における文明誕生の時代から近現代までの世界史(西洋史とアジア史を合わせて)の流れについて理解することである。古代、中世、近世、近代、現代、それぞれの時代がどのような特徴を持った時代なのか、そして各時代における各地域の特質とはどのようなものであったのかについて学び、また同時に各時代において各地域がどのようにして繋がり、「世界史」を構成していたのかについて学習していく。

現在、西洋史関連の書籍は、多く出版されている。下記の「学習上の目標」を達成するためには、学習の過程でわからないことが生じたり、あるいは詳細に知りたい部分が出てきたりした際、インターネットによる書籍検索のシステムなどを使って、積極的に関連する書籍を見つけ、手に取り、疑問を解消していくことが必要である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① 古代から現代までの各時代、各地域における政治、社会、文化の特徴を理解し、説明できるようになる。
- ② 世界史(西洋史とアジア史を合わせて)の流れを理解し、説明することができるようになる。
- ③ 歴史的出来事の原因や帰結を学ぶことで、現代社会の問題点を読み解く力を身につける。
- ④ 世界史を学ぶことの意義について考え、自分なりの答えを持つ。

■ 科目の学習要点事項

1. 古代オリエント世界の特徴について学習する。
2. 古代アテネにおける民主政の歩みとその民主政の特徴について学習する。
3. 古代ローマにおける政体の変遷(共和政から帝政へ)について学習する。
4. 仏教の成立時期からヴァルダナ朝までのインドの歴史について学習する。
5. 中国の古典文明と秦・漢帝国について学習する。
6. 唐代における社会制度の構築と東アジア文化圏の形成について学習する。
7. イスラーム世界の形成と発展について学習する。
8. 中世ヨーロッパ社会の特徴(封建制、農村、都市)について学習する。
9. 中世ヨーロッパにおけるローマ・カトリック世界の形成から衰退の過程について学習する。
10. ルネサンスについて学習する。
11. 宗教改革と宗教戦争について学習する。
12. アメリカ独立革命とフランス革命について学習する。
13. 明清時代の中国と東アジア世界の動向について学習する。
14. 帝国主義と第一次世界大戦について学習する
15. 第二次世界大戦とその後の世界について学習する。

参考文献

『世界史の読み方』宮崎正勝(角川学芸出版)

『新しく学ぶ西洋の歴史:アジアから考える』南塚信吾、秋田茂、高澤紀恵(ミネルヴァ書房)

『世界史/いま、ここから』小田中直樹、帆刈浩之(山川出版社)

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』文部科学省(教育出版)

評価基準

■レポート評価

テキストや参考文献(①～③)、あるいはその他の関連書籍を参考にしながら、課題についての情報を十分に収集し、適切にまとめられたレポートを評価する。

■科目終了試験評価

科目の到達目標を評価基準とし、試験の課題に対する論述の精度を判断して、優(80～100点)、良(70～79点)、可(60～69点)の評価を行う。

『自然環境と文化—世界の地理的展望』

山本正三・内山幸久・犬井 正・田林 明・菊地俊夫・山本 充(原書房)

2011 年度～

科目概要

地理学では、地球温暖化といった地球規模の空間スケールを対象にすることもあれば、人々の伝統的な生活といったヒューマン・スケールを対象にすることもある。本科目では、これらの対象を地理学的に考察する上で重要となる考え方や捉え方の取得を目指す。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 世界規模のスケールで生じる自然環境についての理解
2. 環境決定論、環境可能論、環境認知論、地表の改変者としての人間論の違いに留意した理解
3. 地域で生じている自然環境と人間の諸相について理解
4. 地域で生じている自然環境と人間の諸相についての捉え方、考え方の理解
5. 環境問題に対する地理学的視点の理解
6. 本科目で取得した地理学的視点を、地理教育につなげる考察

■ 科目の学習要点事項

1. 世界の気候、地形、植生、土壌
2. 環境決定論、環境可能論、環境認知論、地表の改変者としての人間論
3. 各地域における自然環境と人間の諸相
4. 自然環境と人間の諸相の関係
5. 世界の環境問題
6. 地理学的視点と地理教育

参考文献

『大学の地理学Ⅰ 自然地理学の基礎』C. J. ラインズ・L. H. ポールウェル・A. F. スミス(古今書院、2000)

『大学の地理学Ⅱ 人文地理学の基礎』C. J. ラインズ・L. H. ポールウェル・A. F. スミス(古今書院、2000)

『大学の地理学Ⅲ 地理学の諸課題と分析手法』C. J. ラインズ・L. H. ポールウェル・A. F. スミス(古今書院、2000)

『ジオ・パル 21 地理学便利帖』浮田典良・池田 碩・戸所 隆・野間晴雄・藤井 正(海青社、2001)

『地理教育講座Ⅰ 地理教育の目的と役割』中村和郎・高橋伸夫・谷内 達・犬井 正編(古今書院、2009)

評価基準

■レポート評価

評価のポイントは、出題の趣旨を理解し、得た知見を基に論理的な記述ができるかどうかである。レポートでは課題に関係する内容をテキストから選び、それぞれの課題に沿うようにまとめること。また、参考文献などを用いて、まとめた内容を補完することが望ましい。なお、提出前には文章の論理構成を推敲すること。

■科目終了試験評価

評価のポイントは、レポート評価と同様に、出題の趣旨を理解し、得た知見を基に論理的な記述ができるかどうかである。テキストの内容の的確な理解は、それらを助けるものとなる。また、レポート課題の講評を的確に理解することも必要である。

使用テキスト

配本年度

『自然環境と文化—世界の地理的展望』

山本正三・内山幸久・犬井 正・田林 明・菊地俊夫・山本 充(原書房)

2019 年度～

科目概要

地理学では、地球温暖化といった地球規模の空間スケールを対象にすることもあれば、人々の伝統的な生活といったヒューマン・スケールを対象にすることもある。本科目では、これらの対象を地理学的に考察する上で重要となる考え方や捉え方の取得を目指す。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 世界規模のスケールで生じる自然環境についての理解
2. 環境決定論、環境可能論、環境認知論、地表の改変者としての人間論の違いに留意した理解
3. 地域で生じている自然環境と人間の諸相について理解
4. 地域で生じている自然環境と人間の諸相についての捉え方、考え方の理解
5. 環境問題に対する地理学的視点の理解
6. 本科目で取得した地理学的視点を、地理教育につなげる考察

■ 科目の学習要点事項

1. 世界の気候、地形、植生、土壌
2. 環境決定論、環境可能論、環境認知論、地表の改変者としての人間論
3. 各地域における自然環境と人間の諸相
4. 自然環境と人間の諸相の関係
5. 世界の環境問題
6. 地理学的視点と地理教育

参考文献

『大学の地理学Ⅰ 自然地理学の基礎』C. J. ラインズ・L. H. ポールウェル・A. F. スミス(古今書院、2000)

『大学の地理学Ⅱ 人文地理学の基礎』C. J. ラインズ・L. H. ポールウェル・A. F. スミス(古今書院、2000)

『大学の地理学Ⅲ 地理学の諸課題と分析手法』C. J. ラインズ・L. H. ポールウェル・A. F. スミス(古今書院、2000)

『ジオ・パル 21 地理学便利帖』浮田典良・池田 碩・戸所 隆・野間晴雄・藤井 正(海青社、2001)

『地理教育講座Ⅰ 地理教育の目的と役割』中村和郎・高橋伸夫・谷内 達・犬井 正編(古今書院、2009)

評価基準

■レポート評価

評価のポイントは、出題の趣旨を理解し、得た知見を基に論理的な記述ができるかどうかである。レポートでは課題に関係する内容をテキストから選び、それぞれの課題に沿うようにまとめること。また、参考文献などを用いて、まとめた内容を補完することが望ましい。なお、提出前には文章の論理構成を推敲すること。

■科目終了試験評価

評価のポイントは、レポート評価と同様に、出題の趣旨を理解し、得た知見を基に論理的な記述ができるかどうかである。テキストの内容の的確な理解は、それらを助けるものとなる。また、レポート課題の講評を的確に理解することも必要である。

使用テキスト

配本年度

『持続可能な社会を考える法律学入門』 井上秀典著(八千代出版)

2017年度～

科目概要

国内法のみならず国際法を含めた法が、私たちの生活の中でどのような役割を果たしているのかを明らかにしていく。

たとえば、人権保障の分野で国内法と国際法がどのように関連しているのかを明らかにする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

国内および国際社会において法とは何か、また、法がどのような役割を果たしているのかが理解できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 法的な思考を身につける。
2. 日常生活の中で国内法と国際法が密接に結びついていることを理解する。

参考文献

- 『法学入門』五十嵐清(悠々社)
『ポケット六法』(有斐閣)
『近代法の常識』伊藤正巳(有信堂)
『憲法』芦部信喜(岩波書店)
『憲法判例百選 1・2』(有斐閣)
『現代法学入門』伊藤正巳・加藤一郎編(有斐閣)
『法とは何か』長谷部恭男(河出書房新社)

評価基準

■ レポート評価

- ①単なる作文ではなく、法的な側面からのレポートになっているかどうか。
- ②本やホームページからの引き写しではなく、調べた結果を消化し、自分の意見が盛り込まれているかどうか。
- ③教科書および参考文献を参照しているかどうかで評価する。

■ 科目終了試験評価

- ①問題を的確に捉え、論点を把握しているかどうか。
- ②起承転結の構成を含め法的な答案になっているかどうか。

使用テキスト

配本年度

『持続可能な社会を考える法律学入門』 井上秀典著(八千代出版)

2019年度～

科目概要

国内法のみならず国際法を含めた法が、私たちの生活の中でどのような役割を果たしているのかを明らかにしていく。

たとえば、人権保障の分野で国内法と国際法がどのように関連しているのかを明らかにする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

国内および国際社会において法とは何か、また、法がどのような役割を果たしているのかが理解できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 法的な思考を身につける。
2. 日常生活の中で国内法と国際法が密接に結びついていることを理解する。

参考文献

『法学入門』五十嵐清(悠々社)

『ポケット六法』(有斐閣)

『近代法の常識』伊藤正巳(有信堂)

『憲法』芦部信喜(岩波書店)

『憲法判例百選 1・2』(有斐閣)

『現代法学入門』伊藤正巳・加藤一郎編(有斐閣)

『法とは何か』長谷部恭男(河出書房新社)

評価基準

■ レポート評価

- ①単なる作文ではなく、法的な側面からのレポートになっているかどうか。
- ②本やホームページからの引き写しではなく、調べた結果を消化し、自分の意見が盛り込まれているかどうか。
- ③教科書および参考文献を参照しているかどうかで評価する。

■ 科目終了試験評価

- ①問題を的確に捉え、論点を把握しているかどうか。
- ②起承転結の構成を含め法的な答案になっているかどうか。

使用テキスト

配本年度

『持続可能な社会を考える法律学入門』 井上秀典著(八千代出版)

2017年度～

科目概要

国内法のみならず、国際法を含めた法が安全保障、環境保護、犯罪、紛争解決などどのように関連しているのかを明らかにする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

国内および国際社会において起こる具体的な問題とその解決のために法の果たす役割を理解できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 法的な思考を身につける。
2. 日常生活の中で国内法と国際法が密接に結びついていることを理解する。

参考文献

『国際条約集』(有斐閣)

『国際法判例百選』(有斐閣)

『国際関係法辞典』国際法学会編(三省堂)

『国際法』柳原正治(放送大学教育振興会)

評価基準

■ レポート評価

- ①単なる作文ではなく、法的な側面からのレポートになっているかどうか。
- ②本やホームページからの引き写しではなく、調べた結果を消化し、自分の意見が盛り込まれているかどうか。
- ③教科書および参考文献を参照しているかどうかで評価する。

■ 科目終了試験評価

- ①問題を的確に捉え、論点を把握しているかどうか。
- ②起承転結の構成を含め法的な答案になっているかどうか。

『持続可能な社会を考える法律学入門』 井上秀典著(八千代出版)

2019 年度～

科目概要

国内法のみならず、国際法を含めた法が安全保障、環境保護、犯罪、紛争解決などどのように関連しているのかを明らかにする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

国内および国際社会において起こる具体的な問題とその解決のために法の果たす役割を理解できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 法的な思考を身につける。
2. 日常生活の中で国内法と国際法が密接に結びついていることを理解する。

参考文献

『国際条約集』(有斐閣)

『国際法判例百選』(有斐閣)

『国際関係法辞典』国際法学会編(三省堂)

『国際法』柳原正治(放送大学教育振興会)

評価基準

■ レポート評価

- ①単なる作文ではなく、法的な側面からのレポートになっているかどうか。
- ②本やホームページからの引き写しではなく、調べた結果を消化し、自分の意見が盛り込まれているかどうか。
- ③教科書および参考文献を参照しているかどうかで評価する。

■ 科目終了試験評価

- ①問題を的確に捉え、論点を把握しているかどうか。
- ②起承転結の構成を含め法的な答案になっているかどうか。

『学習と生徒文化の社会学』須藤康介著（みらい）

2021 年度～

科目概要

主に中学生・高校生の学習と生徒文化に着目して、社会的な考え方を身につける。社会学の中には、教育社会学・労働社会学・家族社会学・地域社会学・宗教社会学・犯罪社会学・科学社会学・文化社会学など、さまざまな研究領域があり、社会学の特徴は対象よりも考え方にある。本科目を通して、社会的なものの方の見方の習得を目指す。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

社会学の特徴は、「科学的根拠の重視」「脱常識」「格差・不平等という視点」「現代の見取り図の提示」である。これらの思考力が身につけてほしい。「体験論や感情論」「常識を鵜呑みにした議論」「格差・不平等という視点の欠落」「社会構造についての考察不足」は評価されない。

■ 科目の学習要点事項

1. 学力といじめ被害 — 勉強ができるといじめられる？
2. 学習時間に対する同級生の影響 — 皆がマジメだと自分も頑張る？
3. KYとアクティブ・ラーニング — グループ学習で困る人は？
4. 努力主義の勉強観とその影響 — 「頑張ればできる」の功罪は？
5. 都道府県ごとの学級崩壊発生率 — 都市部と地方はどう違う？
6. 私立中学校の入試ランクによる違い — 中高一貫校はエリート校？
7. 中学受験入学者の学校適応と価値観 — 中入生と高入生は何が違う？
8. 公立中高一貫校の難関大学進学率 — 私立よりも進学実績がよい？
9. 自己有能感の形成と学歴実力主義 — 学歴重視は悪いことか？
10. ジェンダーをめぐる隠れたカリキュラム — 学校で身につける性役割？
11. 授業形式と教師への信頼 — 三つの信頼はどうすれば高まるのか？
12. 教師の犯罪率とその推移 — 教員は不祥事が多い？

参考文献

- ①『社会学 第2版』奥井智之(東京大学出版会)
- ②『社会学で描く現代社会のスケッチ』友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編(みらい)
- ③『現代社会論』本田由紀編(有斐閣ストウディア)

評価基準

■レポート評価

指定の形式で書かれているか、テキストの内容をふまえているか、自分のオリジナルな考えが示されているか、の三つの観点から合否を判定する。

■科目終了試験評価

論述問題を出題する。「科学的根拠の重視」「脱常識」「格差・不平等という視点」「現代の見取り図の提示」ができているか、という観点から評価を行う。

『入門 経済学』伊藤元重著(日本評論社)

2011年度～

科目概要

売り手と買い手が自由に競争する市場においては、必然的に双方が満足する「均衡」に至る。まずこの過程を解説し、このとき社会的な満足が最大になること、そして外国貿易が行われるならこれがさらに増大することを説明する。また現実には、日本で進行してきた貿易および資本の自由化によって生じる問題を取り上げ、自由化は人々の満足を高める一方で、不利益をもたらすこともあることを説明する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 経済学はどのような学問か／マイクロ経済学とマクロ経済学
2. 効率的に資源を配分するには自由な競争が必要なこと
3. 需要曲線と消費者行動
4. 供給曲線と企業の行動
5. 均衡の意味／売り手・買い手双方の満足
6. 貿易自由化による消費者余剰の増大

■ 科目の学習要点事項

1. 多くの経済問題はトレードオフの関係にある
2. 経済学は世の経済問題にどう関わるか
3. 需要曲線の持つ意味
4. 供給曲線の持つ意味
5. 市場と価格メカニズムの意味
6. 市場競争と経済発展

参考文献

『グラフィック 経済学』浅子和美・石黒順子共著(新世社、2007)

『入門 経済学』井堀利宏(新世社、1997)

『基礎からまなぶ経済学入門』大瀧雅之(有斐閣、2009)

評価基準

■ レポート評価

設問の内容を理解し、テキストや参考書に書いている言葉通りではなく、その内容を自分の言葉で書くことが求められる。

■ 科目終了試験評価

この科目には基本的な知識の枠組みがあるから、何よりもそれを理解すること。具体的には需要曲線と供給曲線、価格メカニズムと消費者余剰について理解ができていること。

『入門 経済学』伊藤元重著(日本評論社)

2019年度～

科目概要

売り手と買い手が自由に競争する市場においては、必然的に双方が満足する「均衡」に至る。まずこの過程を解説し、このとき社会的な満足が最大になること、そして外国貿易が行われるならこれがさらに増大することを説明する。また現実には、日本で進行してきた貿易および資本の自由化によって生じる問題を取り上げ、自由化は人々の満足を高める一方で、不利益をもたらすこともあることを説明する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 経済学はどのような学問か／マイクロ経済学とマクロ経済学
2. 効率的に資源を配分するには自由な競争が必要なこと
3. 需要曲線と消費者行動
4. 供給曲線と企業の行動
5. 均衡の意味／売り手・買い手双方の満足
6. 貿易自由化による消費者余剰の増大

■ 科目の学習要点事項

1. 多くの経済問題はトレードオフの関係にある
2. 経済学は世の経済問題にどう関わるか
3. 需要曲線の持つ意味
4. 供給曲線の持つ意味
5. 市場と価格メカニズムの意味
6. 市場競争と経済発展

参考文献

『グラフィック 経済学』浅子和美・石黒順子共著(新世社、2007)

『入門 経済学』井堀利宏(新世社、1997)

『基礎からまなぶ経済学入門』大瀧雅之(有斐閣、2009)

評価基準

■ レポート評価

設問の内容を理解し、テキストや参考書に書いている言葉通りではなく、その内容を自分の言葉で書くことが求められる。

■ 科目終了試験評価

この科目には基本的な知識の枠組みがあるから、何よりもそれを理解すること。具体的には需要曲線と供給曲線、価格メカニズムと消費者余剰について理解ができていないこと。

『入門 経済学』伊藤元重著(日本評論社)

2011年度～

科目概要

国民所得決定の仕組みを学び、失業やインフレーションが発生するメカニズムを考える。次に、景気に対して金融政策や財政政策がどう対応するかを学ぶ。そしてそれらの効果がかつてに比べて小さくなってきた事情を説明する。また対外取引の自由化によって、日本経済と外国経済との関係が緊密になってきたことから生じるグローバル化時代の経済問題について述べる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 家計、企業、政府という経済主体間の関係
2. 経済における生産・分配・支出と国民所得の三面等価
3. 消費と投資が雇用に与える影響
4. 外国貿易が雇用に与える影響
5. 金融・財政政策の雇用に与える影響
6. 産業構造の変化とライフスタイルの変化

■ 科目の学習要点事項

1. 経済を動かす需要と供給
2. デフレ(物価の下落)の意味
3. 政府支出の増加と国債の累積
4. 中央銀行の役割
5. 製造業の海外移転の意味
6. 国民生活と消費の重要性

参考文献

『グラフィック 経済学』浅子和美・石黒順子共著(新世社、2007)

『入門 経済学』井堀利宏(新世社、1997)

『基礎からまなぶ経済学入門』大瀧雅之(有斐閣、2009)

評価基準

■ レポート評価

設問の内容を理解し、テキストや参考書に書いている言葉通りではなく、その内容を自分の言葉で書くことが求められる。

■ 科目終了試験評価

この科目には基本的な知識の枠組みがある(有効需要理論)から、何よりもそれを理解すること。具体的には失業が発生するメカニズムと、それに対する対処法(政策)について理解すること。

『入門 経済学』伊藤元重著(日本評論社)

2019年度～

科目概要

国民所得決定の仕組みを学び、失業やインフレーションが発生するメカニズムを考える。次に、景気に対して金融政策や財政政策がどう対応するかを学ぶ。そしてそれらの効果がかつてに比べて小さくなってきた事情を説明する。また対外取引の自由化によって、日本経済と外国経済との関係が緊密になってきたことから生じるグローバル化時代の経済問題について述べる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 家計、企業、政府という経済主体間の関係
2. 経済における生産・分配・支出と国民所得の三面等価
3. 消費と投資が雇用に与える影響
4. 外国貿易が雇用に与える影響
5. 金融・財政政策の雇用に与える影響
6. 産業構造の変化とライフスタイルの変化

■ 科目の学習要点事項

1. 経済を動かす需要と供給
2. デフレ(物価の下落)の意味
3. 政府支出の増加と国債の累積
4. 中央銀行の役割
5. 製造業の海外移転の意味
6. 国民生活と消費の重要性

参考文献

『グラフィック 経済学』浅子和美・石黒順子共著(新世社、2007)

『入門 経済学』井堀利宏(新世社、1997)

『基礎からまなぶ経済学入門』大瀧雅之(有斐閣、2009)

評価基準

■ レポート評価

設問の内容を理解し、テキストや参考書に書いている言葉通りではなく、その内容を自分の言葉で書くことが求められる。

■ 科目終了試験評価

この科目には基本的な知識の枠組みがある(有効需要理論)から、何よりもそれを理解すること。具体的には失業が発生するメカニズムと、それに対する対処法(政策)について理解すること。

『倫理学概説』 小坂 国継・岡部 英男 編著(ミネルヴァ書房2005年)

2020 年度～

科目概要

倫理学とは、人間の行為や生のあり方を深く考える哲学の一分野です。そのために倫理学は、実践哲学とも呼ばれますが、そこでの主題は、人間の行為の規範や善・悪、あるいは道徳や法として語られる事柄です。それらは人間の存在の根本に関わるものであるため、倫理学は同時に、「人間とは何か」を主題とする人間論という側面をもっています。

この「倫理学概論」では、そうした倫理学の特性を踏まえて、伝統的な倫理学・人間論に見られるさまざまな思想や概念を身につけることを最初の目標としています。しかし、倫理学が哲学の一分野として、あくまでも徹底した思考を目指すなら、既存の道徳観や人間観をそのままに受け取ることは、思考の自立性に反することであるとも言えるでしょう。そのため倫理学では、歴史上の学説を消化しながら、あくまでも個々の問題や現代の状況をめぐって、各人が自分自身で思考し、熟慮をめぐらせることが必要となるのです。

現代の不安定で複雑な環境のなかで、どのようにして現代的な問題を考え、それに対処していくべきかを、各人が自分の問題として考察するためのひとつの手引きとなることを願っています。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 倫理学の基礎概念を理解し、代表的な倫理学思想を歴史的に習得することができる。
2. 現代の状況を考慮しながら、受講者各人の問題意識に照らして、個々の倫理学思想を検討することができる。
3. 人間存在のあり方を、一貫した論理性と同時に、具体性を備えたかたちで考察することができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 倫理学の思考の特徴
2. 古代ギリシアの倫理思想
3. 近代・現代の倫理思想
4. 現代社会の倫理学的問題に関する考察

参考文献

テキストの「文献案内」を参照。

また、各単位の課題にかんしては、とくに以下の文献を参照。

- (1-a)『アリストテレス倫理学入門』 J. O. アームソン著・雨宮健訳(岩波現代文庫)
- (1-b)『道徳形而上学原論』カント著・篠田英雄訳(岩波文庫)
- (1-c)『道徳の系譜』ニーチェ著、木場深定訳(岩波文庫)
- (2-a)『アリストテレス倫理学入門』 J. O. アームソン著・雨宮健訳(岩波現代文庫)
- (2-b)『哲学入門 第2版』伊藤泰雄著(学研メディカル秀潤社)
- (2-c)『倫理学 〈新装版〉』 ジョージ・エドワード・ムーア 著・深谷 昭三訳(りぶりあ選書)

評価基準

■レポート評価

評価基準は、①倫理学説・思想の正確な理解ができているか、②自らの見解を論理的に説明できているか、③自分なりの見解を提示できているか、の三点とする。引用符号なしの引用(教科書、その他文献、ネット記事等)は認められない。

■科目終了試験評価

評価は、必ずしも内容の正誤のみではなく、論理的かつ説得的な論述力と倫理的思考力によっても判断する。

使用テキスト

配本年度

『プレステップ宗教学』石井研士(弘文堂)
『プレステップ宗教学 第3版』石井研士(弘文堂)

2012年度～2020年度
2021年度～

科目概要

普段の生活の中で宗教に実際に触れる機会は減ってきているように思われる一方で、現代社会の中で宗教の果たす役割は無視できないものであるようにも思われる。本講では、宗教学のキーワードを通して、宗教の意味や役割を理解すること、宗教学という立場から宗教を見る基本的視覚を涵養することを目標とする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 基本的な宗教的行為とその意味を理解する。
2. 宗教の展開する世界観を理解する。
3. 宗教学とはどのような学問か、また現代社会における宗教の意味と役割を理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 宗教学の宗教理解
2. 祈り
3. 儀礼
4. 祭り
5. 修行と戒律
6. 神話
7. 死後の世界
8. シャマニズム
9. 聖地と巡礼
10. 宗教学とは
11. 宗教団体の多様性
12. 現代日本の宗教

参考文献

教科書各章末に付された文献を参照のこと。

評価基準

■ レポート評価

教科書各章に挙げられている具体例とその宗教現象の意味や構造の理論的解釈の的確な理解が求められます。

■ 科目終了試験評価

教科書各章に記されている宗教現象の基本的理解の的確な把握が求められます。

『中等社会科 100 テーマ ―〈地理総合・歴史総合・公共〉授業づくりの手引き―』

和井田 清司ほか編著(三恵社) 2021 年度～

科目概要

中学校社会科並びに高等学校地理歴史科の目的・内容を理解するとともに、授業づくりに当たっての教材研究や学習指導案の作成のあり方について学ぶ。また、授業展開の工夫等望ましい指導法について考察を深め、生徒が興味・関心をもって主体的に関わる授業のあり方について考える。

現行の学習指導要領(中学校学習指導要領:2017年3月改訂、高等学校学習指導要領:2018年3月改訂)は、中学校では2021年度から全面実施に、また、高等学校では2022年度入学生から年次進行によって実施されてきた。参考図書として挙げてあるが、学習指導要領解説をもとに改訂の趣旨やポイント等をしっかり押さえて学習していくことが望まれる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 社会科の誕生から今日までの中学校社会科・高等学校地理歴史科の目的、内容や歴史、指導方法の変遷について、学習指導要領の改訂を通して理解できる。
2. 現行の学習指導要領(中学校2017年 高等学校2018年改訂)の改訂のポイントを踏まえ、これからの中学校社会科・高等学校地理歴史科教育に求められているものを理解できる。
3. 中学校社会科・高等学校地理歴史科の授業づくりにおける、指導計画・学習指導案の作成、授業展開の工夫等を学ぶとともに、望ましい指導法について考察できる。
4. 評価の意義や考え方を理解するとともに、中学校社会科、高等学校地理歴史科それぞれの評価の進め方や留意点について理解を深めることが出来る。

■ 科目の学習要点事項

1. 中学校社会科・高等学校地理歴史科の目標、内容、現状、歴史
2. 現行の学習指導要領(中学校2017年 高等学校2018年改訂)の改訂のポイントと中学校社会科・高等学校地理歴史科教育の課題
3. 中学校社会科・高等学校地理歴史科授業の方法と学習指導案の作成
4. 中学校社会科各分野の構成と授業展開
5. 高等学校地理歴史科「地理総合」「歴史総合」の構成と授業展開
6. 中学校社会科・高等学校地理歴史科の評価

参考文献

『中学校学習指導要領解説 社会編(平成29年7月)』文部科学省(東洋館出版社)

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(平成30年7月)』文部科学省(東洋館出版社)

評価基準

■レポート評価

- テキストを通読したうえで、テーマを正しく受け止めた論述になっているかを見る。また、テキストだけでなく参考文献、とりわけ学習指導要領解説についてもよく目を通し、理解しているかを評価する。
- テキストの記述や参考文献などの丸写しは評価しない。自分なりに考え、自分の言葉で記述しているかを見る。

■科目終了試験評価

- テキストを基本とした学習が進められ、理解が得られているかを評価する。
- 出題範囲は広いが、それぞれの学習要点に関わるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。なお、参考文献ではあるが、学習指導要領解説は、テキストと合わせ目を通しておくこと。

『中国史略 改訂版』王瑞来著 (DTP出版)

2012 年度～

科目概要

古代から近代に至るまで、中国の歴史は波乱万丈の激動状態にあった。内陸民族間の対抗と融和、漢族文化の発展と変容、東西の経済および軍事の衝突などが、数千年間にわたって交響楽を演じてきた。今日、アジアの大国である中国の諸相を理解するためのキーワードは、その数千年間の歴史の中で見つけられるであろう。さらにかつての朝貢体制や漢字文化圏は、現在のアジア諸国とのつながりを考える上で極めて重要であると思われる。通史の形で時代順に沿って、中国を中心とする東洋史の基本知識を紹介する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

東アジアの共生と発展のために、この地域の社会と文化の形成に大きな影響を与えた儒教文化の特質を理解し、その儒教文化の変遷の軌跡を記録した中国の歴史について吟味することで、それぞれが自己の歴史認識を持てるようになることを目標とする。この科目は近代に至るまでの中国社会の変動を述べながら、西方と接触する以前の伝統的アジア社会の様子を示そうと思う。これによって現在のアジア社会と比較するためのモデルが提供されることになるだろう。この科目の学習を通して時代の発展の大筋と歴史の全体像を把握し、先人の経験と教訓から知恵を得ることを目指す。

■ 科目の学習要点事項

1. 概説:「中国」とはなにか
2. 先史時代:考古学発見と伝説
3. 謎の夏王朝と鬼神の支配する殷王朝
4. 封建制の成立:西周
5. 封建から郡県へ:春秋戦国
6. 中央集権的秦漢時代:中華文化の第一次形成期
7. 魏晋南北朝:北方民族と中華世界の衝突と融合
8. 「日出づる処の天子」:隋までの日中交流
9. 隋唐時代:東西交渉と中華文化の第二次形成期
10. 士大夫政治の興起と変容:両宋
11. 北中国の社会:遼・西夏・金
12. 世界の中国:元王朝
13. アジア朝貢体制の再構築:明王朝
14. 天朝の黄昏:清王朝

参考文献

指定教科書『中国史略』の序章第5節「中国史に関する概説書と工具書」を参照。

王瑞来のHP:中国史サロン(<http://salon.gooseide.com/>)

評価基準

■レポート評価

1 単位目

- ・400 字詰め原稿用紙 4 枚程度(レポート用紙 1500 字以上 2250 字以下)
- ・主に時代的背景や成立原因、過程、意義、影響、日中間での「封建」という概念の相違などに関する記述を評価対象とする。

2 単位目

- ・400 字詰め原稿用紙 4 枚程度(レポート用紙 1500 字以上 2250 字以下)
- ・主に、物語の真偽、物語が作られた意図、時代人物論、物語の与えた影響などに関する記述を評価対象とする。

■科目終了試験評価

1. どの程度、東洋史に関する基本知識を理解できているか。
2. 該当問題の要点を抑えられているかどうか。
3. 歴史認識の当否や独自性のある答案になっているか。
4. 文章構成及び論理上の矛盾がないか。

『西洋の歴史を読み解く:人物とテーマでたどる西洋史』上田耕造・入江幸二・比佐篤・梁川洋子
(晃洋書房) 2013年度～

科目概要

この科目では、古代から近代までの西洋の歴史について学んでいく。古代のローマ帝国、中世のローマ・カトリック教会、近世の絶対王政、近代の革命など、西洋史の各時代を象徴する事物について学習し、各時代には、どのような特徴があったのかについて学び、またそれらが、後の時代にどのような影響を与え、受け継がれていくのか、こうした西洋史の流れについて学習していく。現在、西洋史関連の書籍は、多く出版されている。下記の「学習上の目的」を達成するためには、学習の過程でわからないことが生じたり、あるいは詳細に知りたい部分が出てきたりした際、インターネットによる書籍検索システムなどを使って、積極的に関連する書籍を見つけ、手に取り、疑問を解消していくことが必要である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① 古代から近代までの西洋の歴史の変遷を理解し、説明できるようになる。
- ② 西洋史における各時代の政治、社会、文化の特徴を理解し、説明できるようになる。
- ③ 歴史的出来事の原因や帰結を学ぶことで、現代社会の問題点を読み解く力を身につける。

■ 科目の学習要点事項

- ① ヨーロッパの環境の特徴について学習する。
- ② 古代ギリシア・ローマの歴史と当時の社会の特徴について学習する。
- ③ 剣闘士競技を代表とする古代ローマ帝国の文化的特徴について学習する。
- ④ 古代から中世への時代の変遷について学習する。
- ⑤ 中世カトリックの世界について学習する。
- ⑥ 中世におけるローマ・カトリック教会の発展について学習する。
- ⑦ 中世におけるローマ・カトリック教会権威の衰退について学習する。
- ⑧ ルネサンスについて学習する。
- ⑨ 大航海時代について学習する。
- ⑩ 宗教改革について学習する。
- ⑪ 三十年戦争について学習する。
- ⑫ 絶対王政について学習する。
- ⑬ 近世におけるハプスブルク家とロシアの台頭について学習する。
- ⑭ アメリカ独立革命について学習する。
- ⑮ 啓蒙思想とフランス革命について学習する。

参考文献

- ① 『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』朋部良久、南川高志他(ミネルヴァ書房)
- ② 『大学で学ぶ西洋史[近現代]』小山哲、上垣豊他(ミネルヴァ書房)
- ③ 『教養のための西洋史入門』中井義明、佐藤専次他(ミネルヴァ書房)
- ④ 『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』文部科学省(教育出版)

評価基準

■レポート評価

テキストや参考文献(①～③)、あるいはその他の関連書籍を参考にしながら、課題についての情報を十分に収集し、適切にまとめられたレポートを評価する。

■科目終了試験評価

科目の到達目標を評価基準とし、試験の課題に対する論述の精度を判断して、優(80～100点)、良(70～79点)、可(60～69点)の評価を行う。

使用テキスト

配本年度

『地理学基礎シリーズ1 地理学概論』上野和彦・椿真智子・中村康子編(朝倉書店) 2012年度～2018年度

『地理学基礎シリーズ1 地理学概論 第2版』上野和彦・椿真智子・中村康子編(朝倉書店) 2019年度～

科目概要

本科目は人文地理学の基本を学習する。地理学の歴史、目的や課題、「地域」や「景観」などの重要な概念について把握した上で、産業の立地や都市の形成、地理的経済格差や環境問題などをテーマに沿って学び、地理学的な視点を培う。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 人文地理学の基礎的事項を理解する。
2. 人文地理学の見方や考え方を身につける。

■ 科目の学習要点事項

1. 地理学の歴史、目的と課題
2. 「分布」「地域」「立地」などの重要概念
3. 産業の立地と地域構造
4. 流通・交通の地理
5. 都市・村落の地理
6. 生活行動・生活文化の地理
7. 民族・移民の地理
8. 環境問題や地域的経済格差の地理

参考文献

- ①『地理学概説』矢ヶ崎曲隆ほか編著(朝倉書店)
- ②『地理を楽しく！子どもを引きつける60のポイント』地理教育研究会編著(高文研)2009年
- ③『中学校社会科 定番教材の活用術・地理』洪澤文隆編著(東京法令出版)2010年
- ④『中学校社会科 活用学習のファックス教材集・地理編』大杉昭英編(明治図書)2010年

評価基準

■ レポート評価

- ① 教科書をていねいに読んでいるか
- ② 内容を理解し、要約できているか
- ③ 主体的にとりくもうとしているか

■ 科目終了試験評価

事前に問題を12問開示し、そのうち1題をとりあげて当日論述させる。教科書の内容に沿った解答であることが望ましい。

科目終了試験問題(予習用)

以下の科目終了試験問題を受験前の予習に当ててください。(以下のうち1問出題)

- 1、地理学の目的とは何ですか。次の4つの立ち場から論述しなさい。
(1)場所の情報学として (2)地理的条件の分析科学として
(3)場所(地域)の総合科学として (4)教育科学として
- 2、地理学の重要な概念のうち、次の4つの概念を説明しなさい。
(1)分布 (2)地域構造
(3)立地と配置 (4)景観
- 3、等質地域と機能地域の違いについて例をあげて説明しなさい。
- 4、1961年の農業基本法や1966年の野菜生産出荷安定法との関連をふまえて、わが国の野菜の主産地形成について説明しなさい。
- 5、「工業活動は局地的集積を示す一方で、歴史の中で絶えず離心的な動きを示してきた」理由を示しながら、この意味をわかりやすく説明しなさい。
- 6、都市システムを理解するための基礎的な論理を提供しているクリスタラーの中心地理論とはどのようなものですか。説明しなさい。
- 7、近年わが国では耕作放棄地の発生が問題となっています。その要因と問題の実態について論述しなさい。
- 8、現在、先進諸国で問題になっている「第2の人口転換」と呼ばれる現象について説明しなさい。
- 9、地域イメージを形成する場合の地名の役割について、例をあげて説明しなさい。また、新地名などを通してのイメージづくりにおいて重要と思われる点をあげなさい。
- 10、「方言圏論」とはどのような理論か、「アホ」と「バカ」その他の同義語の分布を例にして説明しなさい。
- 11、地理学で扱う社会的不平等について例をあげて説明しなさい。また、地理分野の教科で社会的不平等を扱う際、指導者がもつべき視点を論じなさい。
- 12、地理学における地図の効用を、ハーヴェイの考えをもとに説明しなさい。

使用テキスト

配本年度

『風景のなかの自然地理』杉谷隆・平井幸弘・松本淳(古今書店)

2011年度～

科目概要

自然の仕組みを学び、知ることは、災害、開発、環境保全、資源利用等を考える上で必要不可欠なことである。本科目では、自然の仕組みについて自然地理学という視点から理解することを目指す。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 火山の性質と資源についての理解
2. 河川が作る地形と斜面の地形についての理解
3. 森林、および植生についての理解
4. 台地、丘陵地の自然とその利用についての理解
5. 日本の平野とその利用についての理解
6. 湖の自然と環境問題についての理解
7. 自然の海岸についての理解
8. 日本の気候についての理解

■ 科目の学習要点事項

1. 火山と資源
2. 河川が作る地形、斜面の地形
3. 森林と植生
4. 台地と丘陵
5. 日本の平野
6. 湖の自然
7. 海岸
8. 日本の気候

参考文献

- ①『大学テキスト自然地理学(上巻)』大山 正雄・大矢 雅彦(古今書院)
- ②『大学テキスト自然地理学(下巻)』大山 正雄・大矢 雅彦(古今書院)
- ③『自然地理学概論(地理学基礎シリーズ)』高橋日出男・小泉武栄(朝倉書店)
- ④『環境と生態(地理学講座)』斎藤功・三上岳彦・野上道男(古今書院)
- ⑤『大学の地理学1 自然地理学の基礎』CJ ラインズ・AF スミス・LH ポールウェル(古今書院)

評価基準

■レポート評価

レポート評価は、レポート課題の意図を理解すると共に、テキストの内容を理解し、適切にまとめられているかどうかによって判断される。テキストの内容を基本として客観的に論じること。また、参考文献等で補足することも望ましい。

■科目終了試験評価

科目試験は、レポート課題とは異なり、テキストの内容の中から知識を問う問題が出題される。評価はその内容的に説明できているかによって判断される。レポート課題に対する解説をよく読み、テキストの内容を再度確認しておくこと。

使用テキスト

配本年度

『地誌学概論』矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・吉田悦造編著(朝倉書店)

2012 年度～2020 年度

『地誌学概論[第2版]』矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣 雄矢編著(朝倉書店)

2021 年度～

科目目概要

本科目では、地誌学の基礎を学習する。地誌学の目的、成果と課題、手法などを把握、さらに系統地理学の成果から世界像を概観し、いよいよ世界の各地域をそれぞれのテーマ(視点)から明らかにしていく。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 地誌学の基礎的事項を理解し、その知識を身につける。
2. 動態地誌の見方や考え方を培う。
3. 授業場面を想定し、わかりやすく伝えたり興味を引き出すための発問や教材を主体的に考える。

■ 科目の学習要点事項

1. 地誌学の視点と方法
2. 身近な地域の地誌や歴史地誌
3. 世界の地域構造
4. グローバル化と日本の地誌
5. 着目点を設定して迫る地誌

中国・インド・東南アジア・中東・アメリカ合衆国・ヨーロッパ・サハラ南のアフリカなど世界の国や地域について

参考文献

- ①『中学校社会科 定番教材の活用術・地理』洪澤文隆編著(東京法令出版)2010 年
- ②『中学校社会科 活用学習のファックス教材集・地理編』大杉昭英編(明治図書)2010 年
- ③『地理を楽しく！子どもをひきつける60のポイント』地理教育研究会編著(高文研)2009 年
- ④『もっと知りたい日本と世界のすがた』帝国書院編集部(帝国書院)2008 年
- ⑤『地理学概論』上野和彦他編著(朝倉書店)2007 年

評価基準

■ レポート評価

- ① 教科書をていねいに読んでいるか。
- ② 内容を理解し、要約できているか。
- ③ 主体的にとりくもうとしているか。

■ 科目終了試験評価

事前に問題を開示し、そのうち1題をとりあげて当日論述させる。教科書の内容に沿ったものであることが望ましい。

科目終了試験問題(予習用)

以下の科目終了試験問題を受験前の予習に当ててください。(以下のうち1問出題)

- ① 歴史地誌のアプローチとはどのようなものですか。また地域性を解明する上での歴史地誌的アプローチの利点をあげなさい。
- ② 世界の三大宗教の分布を説明しなさい。またとくにキリスト教については、カトリック、プロテスタント、東方教会という宗派分布を歴史的経緯に触れながら説明しなさい。
- ③ わが国では近年グローバル化により文化景観が激しく変化しています。この変化について、無秩序化・多様化の側面と、標準化・画一化の側面から論述しなさい。
- ④ 中国における「退耕環林」の概要とこの政策がはらむ矛盾を簡潔に説明しなさい。
- ⑤ インドでは近年 IT 産業、とりわけ IT サービス産業が著しく発展しています。その要因と企業分布について説明しなさい。
- ⑥ アメリカ合衆国における移民とホスト社会との関係において論じられてきた「同化論」「メルティングポット論」「サラダボウル論」の違いを説明しなさい。
- ⑦ 交通・通信の発達がアメリカ的生活様式の確立に及ぼした作用をいくつかの例をあげて説明しなさい。
- ⑧ 東南アジアにおける「緑の革命」とはどのようなことを指していますか。成果や課題についても論述しなさい。
- ⑨ わが国で「西アジア」や「北アフリカ」と呼ぶ地域の一部は、今でも多くの国で「中東」と呼ばれています。なぜ「中東」なのか、どこから見て「中東」なのかを地域の歴史性に関連させながら明らかにしなさい。
- ⑩ なぜヨーロッパに EU のような国家の連合体が成立し、発展してきたのかについて、第二次世界大戦後の歴史に立脚しながら論述しなさい。
- ⑪ ラテンアメリカの人種構成と長く続いてきた人種間の差別化・序列化について説明しなさい。
- ⑫ 1980年代から国際通貨基金(IMF)や世界銀行によって推し進められてきた構造調整政策はどのような政策ですか。またその影響をケニアを例にとって説明しなさい。

使用テキスト

配本年度

『New 哲学入門 ー身体・表現・世界』伊藤泰雄著(学習研究社 二〇〇七年)

～2013 年度

『哲学入門 第二版 ー身体・表現・世界』伊藤泰雄著(学習研究社 二〇一三年)

2014 年度～

科目概要

哲学とは、人間が世界や人間自身について思いをめぐらせる思考の技法である。人間を取り巻くすべての事象をめぐって、その根源的・本来的あり方を模索する人類の長いあいだの営みが、「哲学」という名称によって総称される。そのため哲学は、特定の метод論や限定された対象をもたず、思考が自分自身の思考のあり方をも反省しながら、事柄にふさわしい理論や言葉を探していく徹底した思考の歩みそのものである。

アリストテレスが「哲学は驚きに始まる」と語ったように、哲学は、私たちが普段はあまりに自明のことであるため、深く考えることもなくやり過ごしている事柄を注視し、その謎に驚くところから出発する。時間や空間は本質的には何を意味しているのか、私たち人間の生や身体は実のところ何を遂行しているのか、私たち人間の社会や芸術などは究極のところ何を目指し、どのような意欲に根差しているのか、こうしたさまざまな主題に各人が思いを凝らすことこそ、哲学が目指すところである。

本科目は、哲学の基本的な理解を得るために、主には西洋哲学史に属する哲学者や思想家の理論を学びながら、その思考法を各人がしっかりと把握することで、論理的思考や哲学的着想を身につけることを目的とする。参考文献なども手引きとして、各人が自分自身の関心に従って、問題の探求に踏み出すことを期待している。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 哲学の基礎概念を理解し、哲学の主題と思考法を習熟することができる。
2. 歴史上の主要な哲学者・哲学思想を理解することができる。
3. 各人の問題意識に照らしながら、論理的一貫性をもった思考を展開する力を身につけることができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 哲学的思考の特徴
2. 身体・知覚をめぐる哲学的思考
3. 言語・表現をめぐる哲学的思考
4. 芸術・創造をめぐる哲学的思考
5. 社会・歴史をめぐる哲学的思考

参考文献

テキストの各章に付されている参考文献を参照のこと。

また、テキストは主題ごとに書かれていて、かならずしも歴史的な順序ではないので、哲学の歴史の正確な位置づけを知るために、以下のような文献を適宜参照することを薦める。

『哲学の歴史』中央公論社(全一二巻)

『西洋哲学史』熊野純彦著、岩波新書(全二巻)

『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』伊藤邦武、中公新書

評価基準

■レポート評価

1. 思想の正確な理解
 2. 論理的な論述
 3. 対比や論点の明確さ
 4. 解答者本人の問題意識
- といった各点を総合的に評価する。

■科目終了試験評価

事実的な情報の正確さよりも、論述の一貫性を重視する。自分なりの理解でも構わないので、それを首尾一貫して説明することを心掛けて欲しい。

使用テキスト

配本年度

『政治学 (New Liberal Arts Selection)』 久米郁男・古城佳子・真淵勝・川出良枝・田中愛治著(有斐閣) 2012 年度
『政治学 (New Liberal Arts Selection)』(補訂版)久米郁男・古城佳子・真淵勝・川出良枝・田中愛治著(有斐閣)
2013 年度～

科目概要

現代政治学の主要な研究領域を幅広くカバーしたテキストを読み込むことで、学問としての政治学の全体イメージをつかみ、現代の日本政治や国際政治への理解と関心を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 新聞、雑誌、テレビニュース、インターネットなどを通じて、日本はもちろんのこと世界の政治動向に、常に目を光らせるようになる。
2. 本書の読解をきっかけにして、興味を持った専門分野や事項に関しては、参考文献などを通じて自主的な学習をさらに深めることが望まれる。

■ 科目の学習要点事項

1. 政策の対立軸
2. 政治と経済
3. 自由と自由主義
4. 福祉国家
5. 国家と権力
6. 市民社会と国民国家
7. 国内社会と国際関係
8. 国際関係における安全保障
9. 国際関係における富の配分
10. 議会
11. 執政部
12. 官僚制

参考文献

- ①佐々木毅編『現代政治学の名著』(中公新書)
- ②佐々木毅著『政治学の名著 30』(ちくま新書)
- ③バーナード・クリック著、添谷育志・金田耕一訳『現代政治学入門』(講談社学術文庫)
- ④ニッコロ・マキアヴェリ著、池田廉訳『君主論』(中公文庫) / ニッコロ・マキアヴェリ著、佐々木毅訳『君主論』(講談社学術文庫)
- ⑤マックス・ヴェーバー著、脇圭平訳『職業としての政治』(岩波文庫)

評価基準

■レポート評価

レポート作成にあたっては、テキストや参考文献の説明を下敷きにしつつも、自分なりのリサーチや分析を積極的に行うことが望まれる。

■科目終了試験評価

試験はテキスト(『政治学』)から出題されるので、試験範囲(第1章～第12章)を熟読し、また各章末にある確認POINTの欄の問題もすべて解いてみることを。

使用テキスト

配本年度

『政治学 (New Liberal Arts Selection)』(補訂版)久米郁男・古城佳子・真淵勝・川出良枝・田中愛治著(有斐閣)

2019年度～

科目概要

現代政治学の主要な研究領域を幅広くカバーしたテキストを読み込むことで、学問としての政治学の全体イメージをつかみ、現代の日本政治や国際政治への理解と関心を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 新聞、雑誌、テレビニュース、インターネットなどを通じて、日本はもちろんのこと世界の政治動向に、常に目を光らせるようになる。
2. 本書の読解をきっかけにして、興味を持った専門分野や事項に関しては、参考文献などを通じて自主的な学習をさらに深めることが望まれる。

■ 科目の学習要点事項

1. 政策の対立軸
2. 政治と経済
3. 自由と自由主義
4. 福祉国家
5. 国家と権力
6. 市民社会と国民国家
7. 国内社会と国際関係
8. 国際関係における安全保障
9. 国際関係における富の配分
10. 議会
11. 執政部
12. 官僚制

参考文献

- ①佐々木毅編『現代政治学の名著』(中公新書)
- ②佐々木毅著『政治学の名著30』(ちくま新書)
- ③バーナード・クリック著、添谷育志・金田耕一訳『現代政治学入門』(講談社学術文庫)
- ④ニコロ・マキアヴェリ著、池田廉訳『君主論』(中公文庫) / ニッコロ・マキアヴェリ著、佐々木毅訳『君主論』(講談社学術文庫)
- ⑤マックス・ヴェーバー著、脇圭平訳『職業としての政治』(岩波文庫)

評価基準

■レポート評価

レポート作成にあたっては、テキストや参考文献の説明を下敷きにしつつも、自分なりのリサーチや分析を積極的に行うことが望まれる。

■科目終了試験評価

試験はテキスト(『政治学』)から出題されるので、試験範囲(第1章～第12章)を熟読し、また各章末にある確認POINTの欄の問題もすべて解いてみることを。

使用テキスト

配本年度

『政治学 (New Liberal Arts Selection)』 久米郁男・古城佳子・真淵勝・川出良枝・田中愛治著(有斐閣) 2012年度
『政治学 (New Liberal Arts Selection)』(補訂版)久米郁男・古城佳子・真淵勝・川出良枝・田中愛治著(有斐閣)
2013年度～

科目概要

現代政治学の主要な研究領域を幅広くカバーしたテキストを読み込むことで、学問としての政治学の全体イメージをつかみ、現代の日本政治や国際政治への理解と関心を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 新聞、雑誌、テレビニュース、インターネットなどを通じて、日本はもちろんのこと世界の政治動向に、常に目を光らせるようになる。
2. 本書の読解をきっかけにして、興味を持った専門分野や事項に関しては、参考文献などを通じて自主的な学習をさらに深めることが望まれる。

■ 科目の学習要点事項

1. 中央地方関係
2. 国際制度
3. 政策過程
4. 対外政策の形成
5. 制度と政策
6. デモクラシー
7. 投票行動
8. 政治の心理
9. 世論とメディア
10. 選挙と政治参加
11. 利益団体と政治
12. 政党

参考文献

- ①佐々木毅編『現代政治学の名著』(中公新書)
- ②佐々木毅著『政治学の名著30』(ちくま新書)
- ③バーナード・クリック著、添谷育志・金田耕一訳『現代政治学入門』(講談社学術文庫)
- ④ニッコロ・マキアヴェリ著、池田廉訳『君主論』(中公文庫) / ニッコロ・マキアヴェリ著、佐々木毅訳『君主論』(講談社学術文庫)
- ⑤マックス・ヴェーバー著、脇圭平訳『職業としての政治』(岩波文庫)

評価基準

■レポート評価

レポート作成にあたっては、テキストや参考文献の説明を下敷きにしつつも、自分なりのリサーチや分析を積極的に行うことが望まれる。

■科目終了試験評価

試験はテキスト(『政治学』)から出題されるので、試験範囲(第13章～第24章)を熟読し、また各章末にある確認POINTの欄の問題もすべて解いてみることを。

使用テキスト

配本年度

『政治学 (New Liberal Arts Selection)』(補訂版)久米郁男・古城佳子・真淵勝・川出良枝・田中愛治著(有斐閣)

2019年度～

科目概要

現代政治学の主要な研究領域を幅広くカバーしたテキストを読み込むことで、学問としての政治学の全体イメージをつかみ、現代の日本政治や国際政治への理解と関心を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 新聞、雑誌、テレビニュース、インターネットなどを通じて、日本はもちろんのこと世界の政治動向に、常に目を光らせるようになる。
2. 本書の読解をきっかけにして、興味を持った専門分野や事項に関しては、参考文献などを通じて自主的な学習をさらに深めることが望まれる。

■ 科目の学習要点事項

1. 中央地方関係
2. 国際制度
3. 政策過程
4. 対外政策の形成
5. 制度と政策
6. デモクラシー
7. 投票行動
8. 政治の心理
9. 世論とメディア
10. 選挙と政治参加
11. 利益団体と政治
12. 政党

参考文献

- ①佐々木毅編『現代政治学の名著』(中公新書)
- ②佐々木毅著『政治学の名著30』(ちくま新書)
- ③バーナード・クリック著、添谷育志・金田耕一訳『現代政治学入門』(講談社学術文庫)
- ④ニコロ・マキアヴェリ著、池田廉訳『君主論』(中公文庫) / ニッコロ・マキアヴェリ著、佐々木毅訳『君主論』(講談社学術文庫)
- ⑤マックス・ヴェーバー著、脇圭平訳『職業としての政治』(岩波文庫)

評価基準

■レポート評価

レポート作成にあたっては、テキストや参考文献の説明を下敷きにしつつも、自分なりのリサーチや分析を積極的に行うことが望まれる。

■科目終了試験評価

試験はテキスト(『政治学』)から出題されるので、試験範囲(第13章～第24章)を熟読し、また各章末にある確認POINTの欄の問題もすべて解いてみることを。

使用テキスト

配本年度

『絶対に役立つ教養の心理学 -人生を有意義にすごすために-』

藤田哲也編著(ミネルヴァ書房) 2012年度～

科目概要

人がどのように出来事や世界を捉えているのか、個人が他者からどのように認識されるのか、またどのように他者と関わって生活しているのかなどについて学ぶ。その際、身近な事例や実際の研究例、実験例などを通して学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

人が暮らしている日常について心理学の視点から捉えることで、これまで無意識に取っていた行動に対し、改めて意識を向けて理解を深めることを目指す。さらに、心理学的な考え方、ものの見方ができるようになることを目標とする。

■ 科目の学習要点事項

- ・取り上げたトピックについて説明できる。
- ・取り上げるトピックについて自分自身で考える姿勢を身につける。
- ・取り上げたトピックを教育現場の様々な問題と関連付けて考察し、子どもへの教育支援に関して発達的な視点から検討できる。

参考文献

- ①『よくわかる心理学』無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳著(ミネルヴァ書房)
- ②『わたしそしてわれわれ ミレニアムバージョンー現代に生きる人のための心理学テキストブック』大坊郁夫著(北大路書房)
- ③『グラフィック 心理学』北尾倫彦・中島実・井上毅・石王敦子共著(サイエンス社)
- ④『心理学』浦上昌則・中村和彦編著 (ナカニシヤ出版)
- ⑤『心理学概論』京都大学心理学連合編(ナカニシヤ出版)

評価基準

■ レポート評価

テキストの内容を理解し、心理学の知見を踏まえた論理的な主張が示しているか。

■ 科目終了試験評価

- ・心理学的な研究手法の理解、それに基づく仮説検証的な考え方などの理解ができているか。
- ・心理学の知見を日常生活や身近な事例にあてはめて説明できたり、考察できたりするか。

使用テキスト

配本年度

『地理歴史科教育』社会認識教育学会編(学術図書出版社)

2012年度～2020年度

『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』社会認識教育学会編(学術図書出版社)2021年度～

科目概要

地理歴史科教育の意義と課題について学ぶとともに、地理歴史科教育の内容構成についてその類型を学ぶ。さらに、地理科・歴史科それぞれの内容構成とそれにもとづいた授業構成と授業実践の工夫について考える。参考文献としてあげた、新しい学習指導要領にもとづいて学習を進めていくことが望まれる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 社会科教育の意義と課題について理解でき、自らの考えを持つことができる。
2. 地理科教育の内容と構成の諸類型を理解することができる。
3. 歴史科教育の内容と構成の諸類型を理解することができる。
4. 地理の内容にもとづいた学習指導・授業計画をたてることができる。
5. 日本史の内容にもとづいた学習指導・授業計画をたてることができる。
6. 世界史の内容にもとづいた学習指導・授業計画をたてることができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会科教育の意義と課題
2. 地理科教育の内容と構成
3. 歴史科教育の内容と構成
4. 地理の学習指導・授業計画
5. 日本史の学習指導・授業計画
6. 世界史の学習指導・授業計画

参考文献

『中学校学習指導要領解説 社会編(平成20年9月)』文部科学省 日本文教出版

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(平成22年6月)』文部科学省 教育出版

評価基準

■ レポート評価

テキストや参考文献を熟読した上で、自ら考え主体的に執筆しているかどうかを評価する。テキストの丸写しは評価しない。

■ 科目終了試験評価

- ・テキストを基本とした学習が進められ、理解が得られているかどうかを評価する。
- ・テキストにもとづいて、社会科教師としての自らの主体的な考えが確立しているかどうかを評価する。

使用テキスト

配本年度

『新しい社会科教育法』 佐藤徹編著(東海大学出版会)

2014年9月～

科目概要

「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」と教育基本法第1条に記されている。この課題を正面から向き合う教科が中学校社会科の公民的分野並びに高等学校公民科である。この使命を重く受け止め、指導内容や方法を考察していく。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 社会科の歴史を振り返り、社会科誕生に至る経緯の理解が深まる。
2. 社会科教育の変遷を、系統学習と問題解決学習の視点から理解することができる。
3. 中学校社会科(公民的分野)や高等学校公民科の指導の在り方を考察する。
4. 教科書の役割を認識し、広く活用できる。
5. 中学校社会科(公民的分野)や高等学校公民科の教育課程の内容を理解することができる。
6. 模擬授業の意義を理解し、模擬授業を通して授業力を高めようとする意欲をもつ。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会科の歴史と新しい動向
2. 学習指導要領の目的と要点
3. 教科書の活用
4. 中学校社会科(公民的分野)並びに高等学校公民科の教育課程
5. 模擬授業の意義

参考文献

- 『入門 社会・地歴・公民科教育』栗原久編著(梓出版社)
『小学校学習指導要領(29年告示)解説』(社会編)(日本文教出版)
『中学校学習指導要領(29年告示)解説』(社会編)(東洋館出版社)
『高等学校学習指導要領(30年告示)解説』(公民編)(東京書籍)

評価基準

■ レポート評価

- ・課題をしっかり受け止め、まとまりのある記述内容になっているかを判断する。
- ・テキストや参考文献をそのまま転記するのではなく、自分の考えを、自分の言葉で記述されていることが大切になる。

■ 科目終了試験評価

- ・テキスト等を基にして確実に学習が進められたかを判断する。
- ・学習指導要領改訂のポイントを理解し、社会科・公民科に期待されている課題を把握しているかどうかを総合的に判断する。

使用テキスト

配本年度

『入門 社会・地歴・公民科教育』(確かな実践力を身に付ける) 栗原久編著(梓出版社) 2020 年度～

科目概要

社会・公民科教育法1の学習を踏まえ、より実践的な学習を行う。中高生の間に社会科(公民的分野)ならびに公民科嫌いが少なくない実態と向き合い、指導の在り方を考察していく。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 中学校社会科(公民的分野)や高等学校公民科に対する生徒の意識を把握する。
2. 中高生の社会理解の実態に注目する。
3. 教科目標の実現を目指す学習指導案づくりを考察する。
4. 様々な実践事例を学び、よりよい授業づくりに役立てていく。
5. 今日の諸課題を受け止め、その解決に向けた学習指導を工夫していく。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会・公民科の好き嫌い
2. 社会科らしさの追求
3. 社会科授業の方法と学習指導案の作成
4. 中学校社会科(公民的分野)の構成と授業展開
5. 高等学校公民科の構成と授業展開

参考文献

『新しい社会科教育法』佐藤徹編著(東海大学出版会)

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』(東洋館出版社)

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編』(東京書籍)

その他、中学校社会科(公民的分野)、高等学校公民科各科目の教科書等

評価基準

■ レポート評価

- ・課題を受け止め、テキスト等を活用してまとまりのある内容になっているかを判断する。
- ・テキストや参考文献をそのまま転記するのではなく、自分の考えを自らの言葉で記述されているかどうかを重視する。

■ 科目終了試験評価

- ・テキスト等を基にして確実に学習が進められたかどうかを判断する。
- ・中学校社会科(公民的分野)や高等学校公民科の目標や使命を理解しているかどうかを判断する。
- ・広い視野から社会の動向に関心をもち、中学校社会科(公民的分野)や高等学校公民科の課題を把握しているかどうかを判断する。